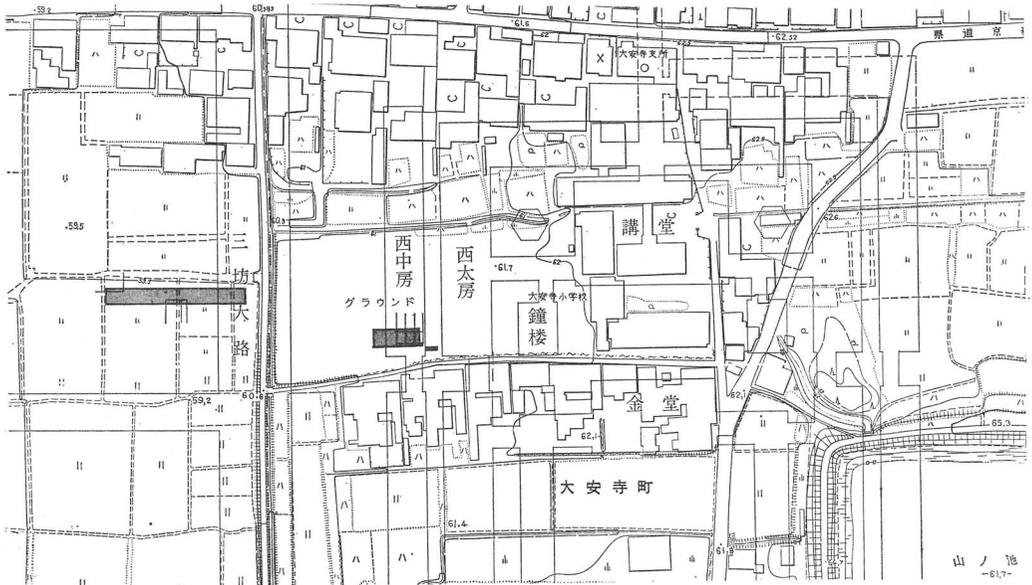


# I 調査の経過

奈良市立大安寺小学校は、奈良時代の官寺であった大安寺の講堂、鐘楼、西僧房などの主要伽藍の配置された場所にあたり、同校敷地内においてもたびたび発掘調査が行われ、大安寺の復原研究も大きく前進してきた。一方、近年における同校区生徒数の急激な増加に対応するために校舎の増築がいそがれてきたが、地下に重要な遺構があるため、校舎増築にも限界があり、校舎の移転が計画されてきた。今回、同校敷地西側の水田を買収し、校舎を移転増築するとともに、現在の敷地全体を運動場にかえて遺構の保全に努めることになった。

校舎の移転予定地は、平城京左京六条三坊十四坪にあたり、東三坊大路および宅地の存在が予想されるため、奈良市教育委員会では文化庁・奈良県教育委員会と協議を行い、国庫補助による学術調査を行うこととなった。奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部では、奈良市教育委員会の委託を受け、昭和52年9月26日から同年10月19日まで発掘調査を行い、掘立柱建物、井戸、土塀、溝などを検出した。本書はこの調査結果の報告書である。なお、同時期に奈良市は校舎移転にとまって現校庭南端に新校舎への渡り廊下の建設を計画し、文化庁に対して史跡大安寺境内の現状変更の許可申請を提出していた。同工事は地下の掘削をほとんど行わない簡易なものであるが、当該地が大安寺西中房にあたるために、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部では奈良市教育委員会と協議し、学術資料を得るために発掘調査を実施することにした。調査は昭和52年10月17日から同年10月26日までで、大安寺西中房の基壇と礎石根石列を検出した。この調査結果についてもここに収録した。

大安寺寺域内では昭和29年の南大門・中門の調査くらい、今日までかなりの発掘調査が行われてきたが、これらの成果もいまだ集成されていない。本書では今後の大安寺の調査研究に資するため、従来の発掘調査の成果をもとにして作成した『大安寺伽藍配置復原図』を収録した。



第1図 発掘区位置図